



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

「経験」と「対応」

東日本大震災の余震活動「あと10年は続く」

2月13日午後11時8分ごろ、福島県沖を震源とするマグニチュード (M) 7.3 の地震があり、最大震度 6 強を観測した。震源の深さは約 60 キロであった。

政府の地質調査委員会によると、今回の地震は 2011 年 3 月の東日本大震災によって福島沖のプレート内部に圧力がかかり発生した地震と考えられるという。これらの余震活動は少なくともあと 10 年は続くだろうと予想されている。

コロナ禍での避難生活

NHK によると、これまでのところ福島県や宮城県、関東地方で計 100 人以上が負傷している。東北・関東地方では一時、約 92 万戸が停電した。共同通信によると津波の心配はないとされる中、多くの住民が自宅から避難し、高台に向かったという。

ただ、高齢の家族を抱える人などコロナ禍での避難を躊躇する者もいた。実際に「令和 2 年 7 月豪雨」の際も被災自治体のアンケートでは、4 人に 1 人がコロナ禍によって避難所への避難を躊躇したと答えている。

そんな中専門家は今回の地震で「令和 2 年 7 月豪雨」でのコロナ対策のノウハウに加え、「2011 年の東日本大震災」の経験が生かされたと言う。福島県相馬市では地震が発生して僅か 1 時間で新型コロナに対応した避難所が立ち上げた。

「ためらわずに避難をしてほしい」と呼びかけている。



震度 6 強を観測したのは宮城県蔵王町や福島県相馬市など。東京 23 区でも震度 4 を観測するなど広範囲で揺れを感じたが、震源が深く、津波警報は発令されなかった。



福島県相馬市の避難所での様子。35 のテントが間隔をあけて設置され、一時は 92 人が身を寄せていた。保健師らが検温と消毒をよびかけた。

私がシンガポールに来て、初めて日本で起こった大きな地震でした。発生してから 5 時間後くらいにスマートフォンにきたニュースでこの情報を知り、そんなに時間がたっていることに驚きました。テレビやスマホから緊急速報が流れないことで、自分が情報を得るのがこんなにも遅いのか、友人の安否を確認するのがこんなにも遅くなってしまうのかと数日たった今でも考えてしまいます。それと同時に、家族・友人・帰国した生徒たちにもし何かあってもすぐに手を差し伸べられないもどかしさもあります。2011 年関西で学生をしていた私が感じていなかった何かを、2021 年海外にいる私が感じるのには十分な出来事です。(西出)